

423
305

亞細亞大觀



金福鐵道線沿の史蹟(三) (關東州)

百三十六回
十二輯ノ六

- 一 貔子窩の洞窟……………
- 二 貔子窩財神廟……………
- 三 三清廟墻壁の石額……………
- 四 歸服堡……………
- 五 歸服堡内の民家……………
- 六 城子疇の市街……………
- 七 城子疇埠頭……………
- 八 塔子屯の石塔……………
- 九 謝家屯の燈籠石……………
- 一〇 謝家屯の砂磅層……………



日本戦史上より見たる金福鐵道沿線 三宅俊成

大連市山縣通一九三

發行所 亞細亞寫真大觀社

電話(2)六二三五番
振替大連七一八番

(毎月一回發行)

版權所有 不許複製

編輯人 大連市山縣通一九三 青山春路
 發行人 同 島崎役治
 發行所 同 亞細亞寫真大觀社





城子瞳の街市

城子瞳の市街は城子瞳驛の北方、碧流河の支流に沿ふて在り。市街を形成するに至つたのは大正十年以來のことであり、大正八年此の地方の凶作が、多額の穀類輸入の戎克船の碧流河を利用する氣運を助成し、戎克貿易港となり、加ふるに昭和三年九月一日金福鐵道開通し、其の終点とし、水陸交通の機關全く完成し、州境の商業都市として繁榮するに至り、人口も三千餘に増加し、年々増加するばかりである。

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 6

城子瞳の埠頭

城子瞳の埠頭は驛の東北、天台山の麓、復州隅子屯より發する碧流河の支流に沿ひ、碧流河口を距る數里の處に在り。滿潮時には優に三百石積の戎克船を多數容るゝに足る。併し從來此の水利を利用する者、僅に運送業者二、三に過ぎなかつたのが、大正八年の凶作後此の水運が大連、山東方面等一般的に知られ次第に利用

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 7



城子瞳の埠頭

城子瞳の埠頭は驛の東北、天台山の麓、復州
 隅子屯より發する碧流河の支流に沿ひ、碧流
 河口を距る數里の處に在り。満潮時には優に三
 百石積の戎克船を多數容るゝに足る。併し從來
 此の水利を利用する者、僅に運送業者二、三に
 過ぎなかつたのが、大正八年の凶作後此の水運
 が大連、山東方面等一般的に知られ次第に利用
 されるに至り、昭和五年戎克繫留場たる小埠頭
 竣功し、今や州境唯一の戎克貿易港となり、州
 境内外の物資の集散地となつてゐる。

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 7

街市の脚

を利用する氣運を助成し、戎克貿易港となり、
 加ふるに昭和三年九月一日金福鐵道開通し、其
 の終点とし、水陸交通の機關全く完成し、州境
 の商業都市として繁榮するに至り、人口も三千
 餘に増加し、年々増加するばかりである。

(亞細亞大觀) 十二



塔子の屯子塔

塔子屯の石塔は城子驢驛の東方約二十町の處に在り
 石塔は地上二、五二米、石質は片麻岩にして、土民の傳ふる處によれば昔突然地中より現はれたもので、塔子なる地名もこれに因る云ふ、此の形式の塔は州内唯一のもので、其の建立の年代は不明であるが、佛塔の一種ではあるまいか。
 (印畫の複製を禁ず)

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 8



謝家屯の燈籠石

燈籠石は城子驢驛の東約一里半碧流河の下流に在り巨岩が浸蝕にあひ、形状稍々燈籠に似たる故に其の名がある。
 満々たる碧流河の水中に浮び、河岸には綠樹茂り、河を上下する眞帆片帆の通ふあり、全く一幅の繪其のものである。
 (印畫の複製を禁ず)

(亞細亞大觀) 十二輯六回 NO. 9

石の塔

たもので、塔子なる地名もこれに因ると云ふ、此の形式の塔は州内唯一のもので、其の建立の年代は不明であるが、佛塔の一種ではあるまいか。
 (印畫の複製を禁ず)

(亞細亞大觀) 十



謝家屯の礫層

謝家屯の燈籠石の附近、碧流河の河口に突出する岬の上層部に厚さ二米に近い礫層があるが、これは地質時代にこの河床であつたことを立証する貴重な資料、を供給するものである。共に現在の關東州の地殻が漸次隆起して居ることを証明するものである。

尙寫眞の遠くに見ゆる台地状の岬は大張家村廟後屯の貝塚であり、又その右方に見ゆるのは海湖寺で乾隆年間の古碑がある。

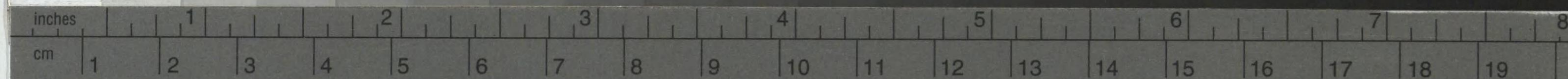
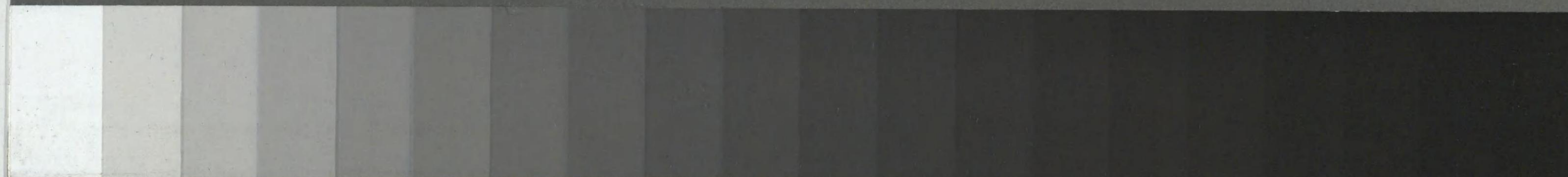
(印畫の複製を禁ず)

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

